

渋沢栄一が関わった会社（2）

～物流・運輸～

【鉄道】

◎日本鉄道（現・JR 東日本）

1867（慶應 3）年、渡欧した栄一がまず驚いたのが鉄道でした。一度に多くの人やモノを輸送できる鉄で出来たこの乗り物こそ、日本の経済発展には不可欠だと栄一は考えたのです。日本鉄道（現・JR 東日本）は 1881（明治 14）年に設立されましたが、栄一はその 3 年後から役員として経営に関わっています。一貫して鉄道国有化に反対していた栄一でしたが、1901（明治 34）年に恐慌が発生すると、鉄道各社の経営は苦しくなりました。東京商工会議所会頭の立場から、栄一は政府に国有化を依頼せざるを得ない状況となり、1906（明治 39）年に鉄道国有法が公布されると、多くの私鉄が国に買収されました。

◎東急・田園調布の開発・現在の渋谷再開発

栄一は、欧米をモデルにした良質な郊外住宅地の開発のため、1918（大正 7）年に田園都市株式会社を設立し、現在の大田区田園調布の開発を推進しました。その後事業を引き継いだ五島慶太は、東急グループの創始者と呼ばれ、現在の東急株式会社、東急電鉄株式会社の礎を築きました。渋谷の街には、東急グループの SHIBUYA109 や東急百貨店などの施設があります。現在、渋谷では 100 年に一度といわれる大規模な再開発が進んでおり、「渋谷ストリーム」「渋谷スクランブルスクエア」などが相次いで開業しています。



東急 田園調布駅（提供 東急株式会社）



渋谷ストリーム（提供 東急株式会社）

【倉庫】

◎澁澤倉庫

栄一は、運送事業と並び物流の重要な役割を果たす倉庫業の発達が不可欠であると考えていました。

そこで、明治 15（1882）年に栄一は「倉庫会社」を設立しましたが、業務不振により 4 年で解散に追い込まれてしまいます。しかし、明治 30（1897）年、栄一は東京・深川福住町にあった渋沢邸内の一角で、自ら営業主となり澁澤倉庫部を創業しました。コメや雑穀などの保管、預証券・質入証券の発行などの業務を営み、明治 42（1909）年には株式会社組織として業務を拡張し、小樽や門司に支店や出張所を開設するなど、六大港を中心に全国展開をはじめました。現在は海外にもネットワークを持ち、倉庫業にとどまらず、総合物流企業として多角的な経営を行なっています。ちなみに、渋沢栄一は実業家人生において約 500 社の設立や経営に関わりましたが、現在、「澁澤」の名を冠しているのはこの澁澤倉庫だけです。



左：創業当時の澁澤倉庫と右：現在の本社ビル（提供 澁澤倉庫株式会社）